

経営比較分析表（令和2年度決算）

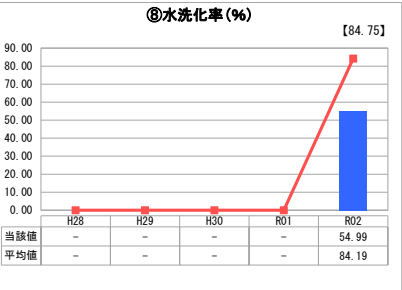
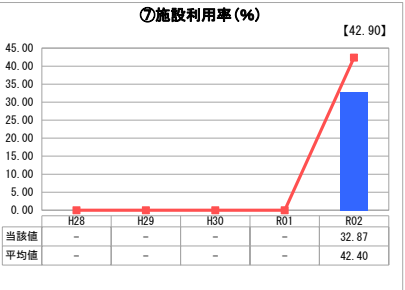
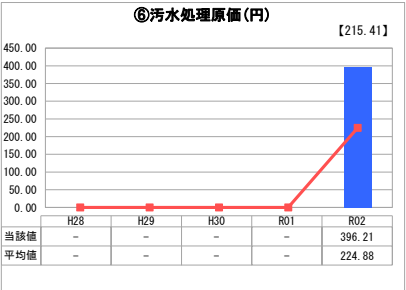
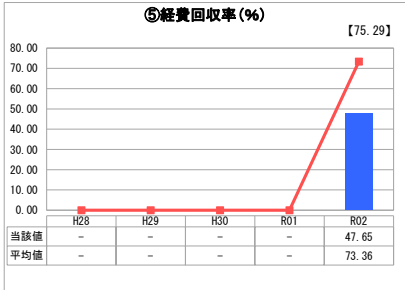
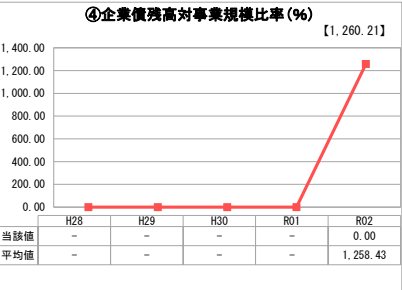
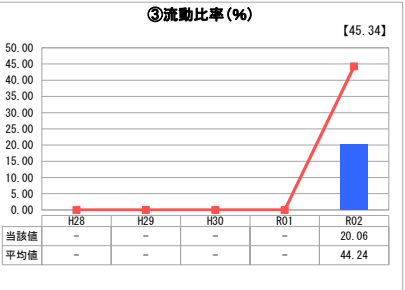
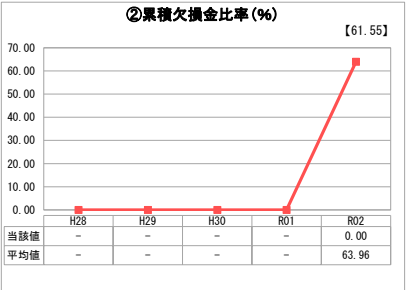
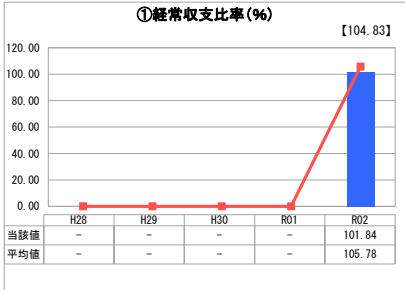
宮城県 石巻市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	69.05	4.74	95.33	3,575

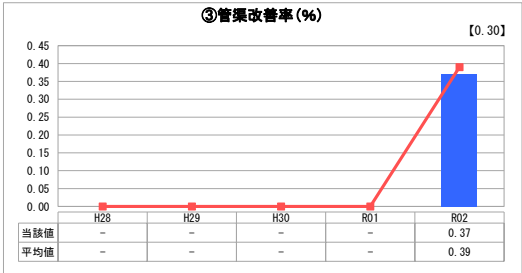
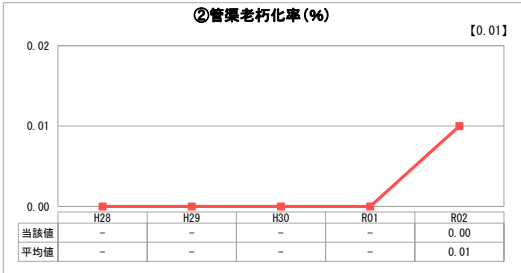
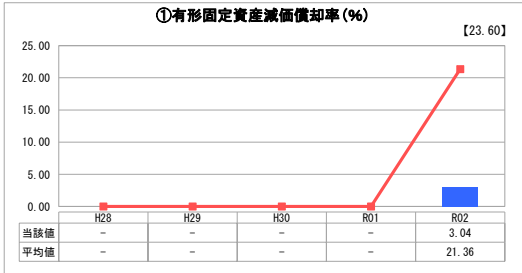
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
140,824	554.55	253.94
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,637	3.24	2,048.46

グラフ凡例
■ 当該団体の値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

東日本大震災の影響により、一部の区域について、廃止せざるを得ない状況となってしまったため、限られた収入で維持管理を行っていきけるかが課題となっている。

経営収支比率については、一般会計からの繰入金に依存しているため、更なる収益の確保と維持管理経費の削減に努める必要がある。

流動比率及び経費回収率、汚水処理原価については、利用者のほとんどが被災者のため、状況を鑑み、使用料の改定を見送っているため、今後の数値の急激な改善は難しい。

施設利用率及び水洗化率については、類似団体と比較すると低くなっている。震災関連の建設事業増により計画を見直したため、まだ完成していない地区もあり、横ばいで推移せざるを得ないのが、現状である。

2. 老朽化の状況について

供用開始から20年程度ということもあり、公共下水道のような老朽化は見られない。また、震災に係る事業の進行により、老朽化への対策は改善されつつある。

今後は、ストックマネジメントの手法を活用し、計画的に施設の長寿命化を図っていかねばならない。

全体総括

今後、施設の老朽化に伴う修繕費用の増加や人口減少による料金収入の増加が難しいことにより、経営環境が厳しさを増していくことから、今後見直しを予定している経営戦略に基づき徹底した経営健全化やストックマネジメントにより計画的に施設の長寿命化を図っていかねばならない。

また、公営企業会計の導入により、経理内容の明確化が図られることから、汚水処理原価に係る使用料の適正な水準を見定め、経営の安定化に努めるほか、復旧・復興（雨水事業）により増大した施設を含め、効率的な施設の維持管理を進める必要があると考えられる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。